

第5学年国語科学習指導案

日 時 平成26年10月2日(木) 公開授業1
児 童 5年生 男11名 女10名 計21名
授業者 村 田 慶

単元名 心にぐっと響いたことを椋鳩十ウォッチで推薦しよう ○中心学習材「大造じいさんとガン」(光村5年)

1 単元の目標

- ◎場面の展開に即して登場人物の相互関係をとらえ、心にぐっと響いた描写の推薦理由をまとめることができる。〔読エ〕
- 推薦理由を発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔読オ〕
- 心にぐっと響いた描写を推薦するために、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。〔読カ〕

2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元では、「推薦カード(椋鳩十ウォッチ)」という言語活動を設定する。推薦カードは、「心にぐっと響いた行動・会話・情景描写(いずれか1つを選択)」、「推薦理由」の2つの要素で構成する。心にぐっと響いた描写を吟味し、推薦理由をまとめるためには、場面の展開に即して登場人物の相互関係をとらえることと、複数の本や文章などを選んで比べて読むことが必要である。また、よりよい推薦理由にするためには、友達との交流を通して、自分の考えを明確にしたり深めたりすることが必要である。したがって、この言語活動は、本単元で付けたい力に適した言語活動であると考えられる。

3 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「あめ玉」と「のどがかわいた」を中心学習材に、物語文の学習をしてきた。「あめ玉」では、「想像した人物像を音読で表現する」という言語活動を通して、時・場所・人物などの物語の設定をとらえたり、行動や会話を基に人物像を想像したりする学習を行ってきた。「のどがかわいた」では、「人物の関わり合いを読み、感想を書く」という言語活動を通して、中心人物と対人物の人物像とその関係を読み取り、二人の関係に対する自分の考えとその根拠を明らかにして感想文にまとめる学習を行ってきた。また、「百年後のふるさとを守る」では、「伝記を読んで考えたことを、作品カードにまとめる」という言語活動を通して、伝記に描かれた人物の尊敬できる行動や生き方について発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行ってきた。その結果、行動描写や会話描写を讀みの視点として活用し、人物像をとらえて物語文を讀む力や、交流によって自分の考えをまとめる力が付いてきている。

しかし、登場人物同士の関わり合いを踏まえて、人物像を想像したり場面の描写をとらえたりする意識がまだ十分ではない児童や、自分の考えをまとめることに苦手意識をもっている児童も見られる。そのため、場面の展開に沿って登場人物の相互関係をとらえることと、考えの形成について指導が必要である。

(2) 学習材について

本単元「心にぐっと響いたことを椋鳩十ウォッチで推薦しよう」は、心にぐっと響いた描写を選ぶために登場人物の相互関係の変化をとらえること、また、推薦するために複数の本や文章などを選んで比べて読むことをねらいとしている。

中心学習材「大造じいさんとガン」は、狩人として生きる大造じいさんの心情が、ガンの頭領である残雪の賢さや勇気、威厳ある行動によって大きく変化していく様子を、優れた行動描写や情景描写、慣用的な表現によって描いた作品である。また、椋鳩十作品は動物と人間との関わり合いを表現豊かに描いたものが多く、動物の本能的な行動が人間の心を大きく揺さぶっていく様子が見事に描かれている。複数の椋鳩十作品を讀み味わい、人間の動物に対する見方の変化につ

いて感じたことや考えたことを友達と交流していくことは、自分の考えを広げたり深めたりすることに適していると考えます。さらに、推薦という目的に向かって活動する中で、これらの学習材を比較して読むことは、登場人物の相互関係の変化をとらえる力の育成につながるであろう。

(3) 指導にあたって

第1次では、昨年度学習した新美南吉作品や、これから学習する椋鳩十作品は、昔から教科書に掲載されてきた名作であることを紹介し、作者と作品に興味をもたせる。また、既習教材である「ごんぎつね」を使用し、「心にぐっと響く」という言葉のイメージを共有する。具体的には、ごんに対する兵十の見方が大きく変わった場面の描写から、①人物への共感、②意外な行動、③読み終わった後の爽快感などを、「心にぐっと響く」という言葉でまとめるようにする。さらに、教師自作の推薦カード（新美南吉ウォッチ）を例に、自分で選んだ椋鳩十作品の推薦カード（椋鳩十ウォッチ）をつくるという単元のゴール像をもたせる。その際、登場人物の相互関係を基に行動・会話・情景描写を1つ選ぶこと、また、どうしてその描写がよいと思ったのか、他の作品や描写と比較した推薦理由を書くことを確認する。学習の見通しをもたせることで、毎時間の学習に必要な感をもつことができるようにする。

第2次では、中心学習材「大造じいさんとガン」を使って、推薦カードの作成に必要な能力を習得させる。まず、心にぐっと響く場面を探しながら、内容の大体をとらえさせる。その際、本文に付箋をはりながら読ませ、後の学習で1つにしぼることができるようにする。また、読みの視点に「人物関係」を与え、大造じいさんと残雪の相互関係に着目させるようにする。次に、残雪に対する大造じいさんの見方が大きく変わったところを基に、推薦したい描写を1つ決めさせる。その際、どうしてその描写がよいと思ったのか、明確な理由を書くことができるよう、同じ場面を選んだ友達とわけを交流する場を設定し、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、椋鳩十作品を並行読書させることで、他の作品や描写と比較した、より説得力のある推薦理由にすることができるようにする。さらに、読書量と、作品を読み味わう時間を確保するために、第2次の1単位時間内に自分で選んだ椋鳩十作品を読む時間を設定し、第3次の活動を意識できるようにする。

また、毎時間のふりかえりの観点として、「友達のこと」、「今読んでいる本に生かすこと」の2つを設定する。友達との交流によって自分の考えをより明確にできるよさを実感させるとともに、身に付いた力をメタ認知させることで、次の活動への意欲付けを図りたい。

第3次では、並行読書してきた椋鳩十作品について、第2次で学んだ読み方を活用しながら推薦カードにまとめる。その際、第2次で作成した推薦カードや壁面掲示、使用したワークシートなどを生かしながら書きまとめることができるよう指導・助言する。その後、異なる作品や描写を選んだグループごとに、心にぐっと響いたことを推薦し、自分が選んだ作品の描写と友達のを比較しながら読むことができるようにする。

4 本単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 心にぐっと響いた描写を推薦するために、登場人物の相互関係を基にしながら、進んで推薦カードを作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 心にぐっと響いた描写を推薦するために、登場人物の相互関係をとらえた推薦理由をまとめている。〔読エ〕 心にぐっと響いた描写の推薦理由を明確にするために、友達の考えを参考にしたり比較したりしている。〔読オ〕 心にぐっと響いた描写を推薦するために、他の椋鳩十作品や描写と比較した推薦理由をまとめている。〔読カ〕 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の描写について、言葉の美しさや使い方に対する感覚に関心をもって物語を読んでいる。〔伝国イ（カ）〕

5 学習指導計画（全10時間）

	主な学習活動	読みの視点	評価《 》評価方法
第1次 (2時間)	課外	・新美南吉や椋鳩十の作品は、昔から教科書に掲載されてきた名作であること知る。	関 これからの学習で扱う作品や作者に興味をもち、進んで読書しようとしている。 《発言・観察》
	第1時	・既習教材（ごんぎつね）を読み、心にぐっと響いた場面の描写について交流する。	関 「心にぐっと響く」という言葉のイメージをもち、場面の描写について進んで話し合おうとしている。 《話し合いの様子》
	第2時	・教師自作の推薦カード（新美南吉ウォッチ）の構成要素を理解し、学習の見通しをもつ。	関 推薦カードを作るために必要な要素を理解し、学習の見通しをもとうとしている。 《ワークシート》
第2次 (5時間)	第3・4時	・心にぐっと響く場面を探しながら、「大造じいさんとガン」の内容の大体を読む。	読 登場人物の相互関係に着目しながら、あらすじをとらえている。〔読エ〕 《ワークシート》
	第5時	・心にぐっと響いた描写を1つ選ぶために、大造じいさんと残雪の関係の変化をとらえて読む。	読 登場人物の相互関係の変化をとらえている。〔読エ〕 《ワークシート》
	第6時（本時）	・心にぐっと響いた描写について、選んだ理由を明確にするために、友達の考えを参考にしたり比較したりして、自分の考えをまとめる。	読 友達の考えを参考にしたり比較したりして、自分の考えを明確にしている。 〔読オ〕《ワークシート》
	第7時	・並行読書してきた椋鳩十作品や「大造じいさんとガン」の他の描写と比べた推薦理由を書きまとめる。	読 他の作品や描写と比べた推薦理由を書きまとめている。〔読カ〕《ワークシート》
第3次 (3時間)	第8時	・並行読書してきた椋鳩十作品の中から、相互関係の変化を基に、心にぐっと響いた描写を1つ選ぶ。	読 登場人物の相互関係の変化を基に、心にぐっと響いた描写を選んでいる。〔読エ〕 《ワークシート》
	第9時	・他の椋鳩十作品や描写と比べた推薦理由を、推薦カード（椋鳩十ウォッチ）に書きまとめる。	読 他の作品や描写と比べた推薦理由を書きまとめている。〔読カ〕 《椋鳩十ウォッチ》
	第10時	・異なる椋鳩十作品や描写を選んだグループごとに、心にぐっと響いたことを推薦する。	関 自分が推薦した作品を相手に読んでもらえるよう、進んで活動している。 《発言・観察》 読 友達が推薦した他の作品や描写を比べて読んでいる。〔読カ〕《ワークシート》

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・心にぐっと響いた描写について、選んだ理由を明確にするために、友達のことを参考にしたり比較したりして、自分の考えをまとめることができる。〔読オ〕

(2) 確かに読み取るための読みの視点

- ・前時までにとらえた、残雪に対する大造じいさんの見方が大きく変わったところを基に読む。

【設定】

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 〔 〕 読みの視点
みとおす 3分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。	・前時は心にぐっと響く描写を1つ選んだことを想起させ、学習計画を基に本時の位置付けを確認する。
	大造じいさんの残雪を見る目が変わったところを交流しよう。	
ふかめる 30分	3 学習課題を解決する。 (1) 選んだ理由を書く。 (2) 同じ場面を選んだ友達と理由を交流する。 (3) 交流を基に、選んだ理由を書きまとめる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 前時までにとらえた、残雪に対する大造じいさんの見方が大きく変わったところを基に読む。【設定】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何を書けばよいか困っている児童や、相互関係の変化を基に理由をまとめていない児童に対して、前時の学習を想起させ、大造じいさんの残雪への見方がどう変わったかを対話により確認し、言葉を引き出すようにする。 ・相互関係の変化を基に理由をまとめている児童に対して、叙述を基に具体的な説明ができるよう支援する。 ・どの描写を選んだかを交流するのではなく、その描写を選んだ理由（共通点や相違点）を比較させることで、考えに広がりや深まりをもたせるようにする。 ・手が止まっている児童に対して、交流を基に明確な考えを書くことができるよう、友達との共通点や相違点をふりかえらせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価規準 友達のことを参考にしたり比較したりして、自分の考えを明確にしている。〔読オ〕 《ワークシート》 </div>
まとめる 12分	4 学習のふりかえりをする。 5 自分で選んだ作品を読む。 6 次時の学習について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達のこと」「今読んでいる本に生かすこと」についてふりかえらせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 最初は理由がうまく書けなかったけど、〇〇さんの理由を聞いて、自分の考えをはっきりさせることができました。 今読んでいる本でも、登場人物を見る目が変わったところをもとに、理由をまとめていきたいです。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・心にぐっと響く場面に付箋をはりながら読ませる。

(4) 板書計画

心にぐっとひびいたことを

椋鳩十ウォッチですいせんしよう

大造じいさんとガン

椋 鳩十

⑥ 大造じいさんの残雪を見る目が変わった
ところを交流しよう。

◎ どうしてその描写がよいと思ったのか？

最初は残雪を「たかが鳥」と思っていたのに、

ぼくが大造じいさん
でも、そうする

・ なんと思ったか、再びじゅうを
下ろしてしまいました。

大造じいさん

ずっといまいましく思っていた
はずなのに意外

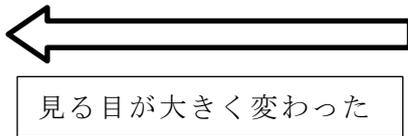
・ ただの鳥に対してしているような気が
がしませんでした。

仲間のために戦っ
たところに感動

・ 「おうい、ガンの英雄よ。おまえ
みたいなえらぶつを、おれは、
ひきようなやり方でやつつけた
かあないぞ。なあ、おい。今年
の冬も、仲間を連れてぬま地に
やって来いよ。そうして、おれ
たちは、また堂々と戦おうじゃ
ないか。」

大事なライバル

残
雪



見る目が大きく変わった

⑤ 友達のこと

今読んでいる本に生かすこと